

## 平成27年度 港区立港南中学校 学校経営計画

校長 渡辺 一信

平成18年度の改正教育基本法の理念や学校教育法の目標の実現に向けて、新学習指導要領の全面実施となり、新教育課程が実施され4年目を迎えた。今や、次期学習指導要領のアクティブ・ラーニングなどの能動的学習の提唱等が聞こえてくる。それは、資質・能力の形成には、「知識・理解」を習得させるよりもそれらを活用するスキルの育成を重視するものである。

したがって学校教育を担っている私たち教員は、このアクティブ・ラーニングの考えを重視し、未来を創造する教師として学習指導要領の完全な実施、港区教育ビジョン・学校教育推進計画（「徳」「知」「体」を育む学びの推進・生き抜く力を育む学びの推進・地域社会で支えあう学びの推進・学びを支える教育環境の充実）の実現ため、そして港南中学校の特色ある教育活動の推進と本校が抱える課題（学校評価）の解決に向けて全力投球していかなければならない。

このことは、子どもたちが夢と希望を持ち続け、輝かしい未来を切り拓く主体者となるよう「健やかな身体」、「豊かな心」、「確かな学力」の育成など、「生き抜く力」をはぐくむ教育を一層推進することである。

学習指導要領改訂による課題は、①授業時数の増加、②教育内容の量的増大と質的な充実、③学習活動における習得・活用・探求と言語活動・体験活動の重視、④教科等の指導と道徳教育の関連付け、⑤キャリア教育の重視、⑥幼・小中連携・接続の重視などが上げられる。これらの課題解決を図るために本校の教育課程の編成や実施にこれまで以上に創意工夫をして学習指導要領のねらいを正しく実践していく必要がある。そのためには、私たち教職員一人ひとりの資質・能力の向上（学級経営力、学年経営力、学習指導力、生活指導力、進路指導力、外部との連携・折衝力、学校運営力、組織貢献力）が求められている。

昨年度は、港南中学校新時代の幕開けとなる「進路実現」「規律ある生活態度」「学校行事・部活動の成果」等の成果を残すことができた。これからも明日への理想に向かってさらなる躍進をして行かなければならない。今年度は、新入生の入学者数が62人となったが、来年度は、80名を超える新入生を迎えられるように学校力を高めていきたい。そして、将来的には各学年3学級を超える区内最大の中学校になることを目指したい。

平成27年度は、これから始まる港南中学校の新時代を迎えるべく港南中学校の大きな一歩を踏み出す年度にしていきたい。そのために私たち教職員は、「魅力あふれる教職員」を目指していく使命と責任がある。「魅力あふれる教員」とは、「わかりやすい授業の実践」と「夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子どもを育てたい」という教育理念を持ち、子どもや保護者の心の痛みがわかり、その思いや願いに敏感で共感できる豊かな感性をもった教員である。そして、家庭、地域との連携を深め学校の教育力を高め、生徒を自立した一人の人間へと育み、さらには部活動を通し個性の伸長を図り文武両道の教育活動を進めていくことが私たちに求められるのである。

本区は、平成24年度から、アカデミー体制の下で幼・小中一貫教育への実践的取り組み

を積み重ねてきた。幼・小中連携を強化し、特に接続期における段差の解消、カリキュラムの系統性の重視を前提に、生徒一人ひとりに焦点を当てた細やかな指導をさらに推進し、学習意欲の向上や学力・体力の二極化など本校の教育課題の解決に取り組んでいかなければならない。そして、今年度は、幼児期の教育を含めた特色ある幼・小中一貫教育を推進する。

特に、今年度は、芝浦幼稚園・小学校との連携にウエイトを置いた幼・小中連携の研究に取り組む課題の解決に当たっていききたい。

以上の取り組みの成果を一層効果的にしていくためには、保護者の理解、協力、支援が大前提となることはいうまでもない。したがって、保護者の信頼を得る教育実践を以下のように推進する。

本年度、下記の3つの教育目標を掲げ、教育活動を進めます。

- ①すすんで、豊かな心と健やかな身体を育む生徒を育てます。
- ② すすんで、自他の敬愛と協力を重んずる生徒を育てます。
- ③ すすんで、学ぶ意欲と深く考える力を伸ばす生徒を育てます。

すすんで何事にも取り組む、すなわち「主体的・能動的」を基盤に、体力・協力・学力向上をキーワードに生徒を育成する教育活動を推進する。

## I 教育目標を達成するため今年度の方策

1 豊かなスポーツライフの基礎の育成(体力向上)では、小中一体型の人工芝の広い校庭、冷暖房完備した大小二つの体育館などの優れた施設・設備を活用、そして、NPO 法人クラブトムと協働し外部指導員を活用した指導の充実を図り体力・運動能力の向上に努めます。

- (1) 日常の保健体育の授業を充実させ楽しい授業を推進して生徒の体力向上を図っていきます。特に、柔道の授業においては、専門家を招き男女ともに柔道の充実と安全に配慮した授業を実施していきます。
- (2) プラクティスタイムを導入し週1回学年スポーツタイムを設定して体力・運動能力の向上に取り組めます。
- (3) 体育的行事を通して体力・運動能力の育成に努めます。また運動会、区連合体育大会、部活動の参加の仕方においてスポーツの多様な係わり方(する・観る・支える)を理解し行動できるようにします。
- (4) スポーツテストを通して自己の体力・運動能力を測定したデータによる自己理解を図り、運動やスポーツに積極的に取り組み自己の体力向上に努める態度の育成を図ります。
- (5) NPO 法人クラブトムと協働して学期に2回以上のスポーツクリニックやスポーツセミナーを開催し生徒の豊かなスポーツライフの基礎を培います。
- (6) 一流アスリートを招きスポーツクリニックや講演会を開催しアスリートの生き方から自分の学校生活の在り方を学んでいきます。
- (7) 地域と連携をした女子サッカー合同運動部活動を推進し、なでしこジャパンの裾野を拡大します。
- (8) なぎなた部を通して港区発祥のスポーツを愛し技と心を育みます。
- (9) 東京国際ユース(U-14)サッカー大会の海外の参加チームを招き、生徒会を中心として

国際交流を開催し、海外選手と本校生徒との親善を図り「おもてなしの心」や異国の文化の理解を深めます。サッカーを通じたスポーツ交流で友情を育み豊かなスポーツライフの基礎を育みます。

(10) オリンピック・パラリンピック教育を意図的・計画的に取り組み、オリンピック・パラリンピック開催の喜びと感動の心を育み、東京開催に参画する意識を育んでいきます。以上の体育的活動・部活動の活動を通して体力・運動能力の向上やスポーツライフの基礎の育成に努めていきます。

**2 豊かな心の育成（人や社会・自然とかかわる力の向上）**として、様々な特色ある教育活動を推進していきます。特に、キャリア教育を中学校教育の基盤に据え意図的・計画的にキャリア発達を育み、自分の将来に目標を持ち、自己の進路を自ら切り開く心の育成に力を入れていきます。

(1) 地域の事業所の協力を得て、職場訪問（1年）や職場体験（2年）を3日間実施します。地域全体で子どもを育むような地域連携教育を形成していきます。

(2) 職場体験事前学習として区内企業の協力を得て、コミュニケーション能力育成の体験学習を取り入れていきます。

(3) 進路学習として上級学校調べ（1年）先輩の高校進学体験談を聞く会、高校訪問（1・2年）、都立三田高校・芝商業高校の先生から受験・進路指導（2・3年）、高校生活の様子・高校卒業後の進路講話を開催（2・3年）し自らの将来に挑戦する心を育成していきます。

(4) 近隣の港特別支援学校と連携し、2年生のレクリエーション交流等を実施し様々な人との交流を通して思いやりの心を育成していきます。

(5) 総合的な学習の時間では地域の方を講師に、なぎなた、華道、茶道等の日本の伝統・文化体験を実施し、日本の文化を理解し、他国の文化を尊重できる国際人としての心の育成をしていきます。

(6) 地域参加型もちつき大会を実施して地域との方々との交流を大切にする心を育成すると共に日本の伝統文化体験を実施します。

(7) 全校生徒参加の地域防災訓練を行って防災意識を高め、地域の一員として、地域貢献の態度と心を育成します。

(8) 運動会、学芸発表会等の学校行事では学年の枠を越えた異年齢集団での取り組みを通して協力や思いやりなど人との関わりの心を育成していきます。

(9) 思春期を迎えた生徒に性教育を通して人間としての生き方教育を推進していきます。

(10) 放課後には、運動部や文化部で興味・関心に応じて部活動を行い異年齢集団の中で心身の育成を図り、充実した中学校生活を送っていきます。

(11) 道徳の授業の充実を図り規範意識や思いやりの心を育てます。特に、いじめや差別などない人権に配慮した生活ができるようにします。

**3 能動的な学習・確かな学力の育成（学力向上）**

本年度も、学力向上を最優先課題として能動的な学習態度の育成を図るプラクティスタイムを設定し全校を挙げて取り組みます。

- (1) 英語・数学の習熟度別少人数授業、国語科はクラスを単純 2 分割した少人数授業など生徒の学習意欲を高め、学習をする意識の向上を図っていきます。
- (2) 能動的な学習態度の育成を図るプラクティスタイムの時間を設定し港南ノートを活用した「能動的基礎基本の定着学習」「能動的問題解決学習」に取り組みます。
- (3) 港南プロジェクトの2年目の取り組みとして一層の充実を図り基礎・基本の定着と課題解決学習の主体的な取り組みができる学習習慣の形成を図るようにします。
- (4) 東京海洋大学と連携し、ジュニアカレッジ運河学習を1・2年生で実施し探求的学習を通して科学的思考・判断力の育成をしていきます。そして、運河学習を通して運河を大切にしている心情や地域に美しい運河をもつ街の一員として環境づくりの意識を持った生徒の育成をします。
- (5) 都立三田高校・芝商業高校と連携し都立入試対策講座、高校の出前授業（5教科）、高校生によるマナー講座を実施し学習意欲と高校への進路実現の意識を高めていきます。
- (6) 勉強部を発足し放課後に担当教員と大学生のスクールボランティアなど外部人材を活用し、個に応じた学習支援（補充学習等）を行っていきます。
- (7) 学区域の幼・小学校の行事や授業に本校の教員や生徒が参加し連携・交流を深めていきます。
- (8) 港南アカデミーの幼・小中連携に取り組み連携を深め小中のギャップを解消していくと共に質の高いアカデミー教育を推進します。特に、今年度は、芝浦幼・小の連携について研究を深めていきます。
- (9) 生徒の授業に対する自己評価・授業評価、地域や保護者の協力を得て外部評価を実施し、教師の授業改善を図りわかる授業に取り組みます。

#### 4 その他の重要課題

- (1) **いじめのない学校を目指す**。各学期に「ふれあい月間」を設定しいじめに関わる道徳の授業（発生予防）、いじめ調査（早期発見）、担任等の相談（早期対応）、保護者との連携を計画的に実施します。
- (2) **体罰のない教育を推進します**。言語活動の充実を図り子どもたちが安心して学習できる環境づくりや子どもに分かりやすい学習指導を徹底します。
- (3) **学校関係者評価の低い項目「いじめ・不登校の取り組み」「道徳の授業内容の充実」「分かりやすい授業」の項目が「取り組んでいるが70%以上」になるように目指します**。
- (4) 学校内での事故やけがが起こらないように安全に配慮した学習指導に心がける。事故が起こった時には速やかに事故者の安全配慮と安心した保健室への搬送・養護教諭への連携を密にとって確実に引き渡しを行う。なお、必要に応じて、家庭や医療機関との連絡をする。また、再発防止に最大努める。
- (5) 携帯・SNSの使用については、家庭が考えることであるが、その依存的行動は学習や生活の乱れ等を誘引し学校生活がおろそかになることから港南ルールを決めて家庭への協力を呼び掛けていく。

## Ⅱ 教育目標を達成するため短・中期方策

### 1 本校の教育目標

民主的で文化的な国家の発展と世界の平和と人類の福祉の向上を実現するため、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた生徒を育てます。

- すすんで、豊かな心と健やかな身体を育む生徒
- すすんで、自他の敬愛と協力を重んずる生徒
- すすんで、学ぶ意欲と深く考える力を伸ばす生徒

### 2 めざす教育像

港区教育ビジョンにおいて、学校に期待される役割は、①社会性を備えた豊かな心の育成。②基礎学力・活用力の習得。③子供の体力・運動能力の向上。④特別支援教育の充実。⑤幼小中の一貫教育の推進。⑥国際人育成の取り組み。⑦魅力ある学校教育を支える環境の整備・充実。と地域児童福祉施設（保育所、児童館、子ども中高生プラザ等）との連携に取り組み、多様な主体との協働による教育を推進することである。

港南中学校区では、保育園・幼稚園や小学校にはたくさんの園児・児童が入学している。そして、放課後は、子ども中高生プラザを利用し生活をしている。その数は、年々増加している。その子供たちがやがて、中学校にも押し寄せてくることが予想される。生徒が増加してもこれまでの港南中の良き伝統（生徒に親身になって面倒見の良い指導）を継承しつつ、体・徳・知のバランスのとれた生徒の育成という不易と流行の調和を図りながら、新しい状況に対応したアクティブ・ラーニングにより「学びの質を深める」教育を推進していく。また、港南中学校区が、文教地区として、地域教育・文化・スポーツの拠点となり地域と共に在り、地域に信頼され、子どもたちが誇れる学校となり誰もが通いたくなるような魅力的な学校をめざしていく。

#### 港区教育ビジョン『目指す子供の姿』

「夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子ども」

#### (1) めざす生徒像

- あいさつのできる生徒（あいさつ）
- 行事に燃える生徒（行事に燃える）
- 校舎をきれいに使える生徒（きれいな校舎）
- 友だちと仲良くできる生徒（絆）

#### (2) めざす教職員像

- 厳しいけれど温かく指導する教職員
- 生徒の良さを引き出す教職員
- 研修意欲と実践力のある教職員

#### (3) めざす学校像

- 安全で安心して過ごすことができる学校
- 生徒一人一人が生き生きと楽しく学ぶことができる学校
- 保護者や地域に信頼される学校

### 3 短期的目標実現のための方策

#### (1) 充実した学習指導で学力向上を達成するために（学習指導）

- ①確かな学力の定着を図るため少人数授業を推進します。また、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視し、言語活動の充実に取り組み主体的・能動的に学習に取り組む態度を育みます。
- ②「全国・都・区の学力調査」や「生徒による授業評価」「教員相互の授業評価」「外部評価」の結果等を踏まえ、発達段階や習熟度に応じた指導の改善を常に図ります。
- ③各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の教育活動においてゲストティーチャーの積極的活用に努めます。また、一斉学習だけでなく、グループ学習、個別学習、習熟度別による学習指導、TT等、多様な学習形態の工夫を図ります。
- ④国際化時代に対応できるよう、外国語(国際)の授業においてNTを積極的に活用し、英会話や英語教育を充実させます。英検受験の100%受験を目指します。
- ⑤各教科、総合的な学習の時間において、記録、要約、説明、評価、記述等の言語活動を数多く取り入れ、思考力・判断力・表現力等を育成します。
- ⑥情報化社会に必要なモラルを育成するとともに、科学的な見方や考え方を培い科学的な事象に対する興味や関心を高めます。その方法として、ICTを活用した教育を推進します。27年度デジタル化への取り組みを推進します。
- ⑦年間で一人一回の研究授業を実施して教科の専門性と指導力を高め授業改善を図り、生徒の学力向上を推進します。
- ⑧生徒一人ひとりの学力向上を図るために、授業のみならず家庭学習まで広げ、主体的な学びを支える学びのサイクルづくりを推進します。そのために、家庭学習の習慣化をするように1年生70分・2年生80分・3年生90分の家庭学習を実施するように保護者の協力を得ます。また、勉強部を中心に補習・補充授業を計画的に実施します。
- ⑨過去5年間の区学力調査の結果を分析し現状の把握と課題を明らかにします。
- ⑩全国学力学習状況調査の**全国平均を100とした時、国語「107」、数学「108」成果指標とします。**
- ⑪区学力調査の**全国平均を100とした時、中3理科「100」を成果指標とします。**
- ⑫平成28・29年度、区教育研究会の研究指定校として研究・発表する。そのために、平成27年度の校内研修の中で次年度の研究テーマを考えていく。

#### (2) 大人への育ちを充実させるために（生活指導）

- ①道徳や特別活動の時間を核として、生命を尊重し、自他の敬愛を重んじ他者と協力して行事等に取り組む態度を育てます。特に、思春期を意識した性教育に全職員で

取り組みます。

- ②基本的な生活習慣の確立に努め、礼儀を重んじ、きまりを守り、個人や集団生活の向上に努める心と態度を育成します。そして、好ましい人間関係構築能力を育成します。家庭における生徒の基本的な生活習慣の確立を願い保護者の協力・連携を大切にしていきます。
- ③日常的な生徒とのかかわりや保護者との連携を重視し、いじめや不登校などを未然に防止するとともに、問題の早期発見、早期解決に努めます。課題に応じて課題の解決にあたってはサポートチームを編成し、組織的に取り組みます。
- ④生徒会活動・委員会活動の活性化を図り、「港子ども宣言」を基にした「港南中生徒会宣言」を計画し生徒の自主的・自立的な活動を支援していきます。
- ⑤家庭、地域社会及び関係諸機関との連携を密にし、生徒の豊かな自己実現を図るよう支援します。
- ⑥セーフティー教室、携帯電話・SNS等の所持・使い方、薬物乱用防止教室、性教育、避難訓練、防災訓練を計画的に実施し、生徒の健全育成と自己管理能力を育むとともに安全管理体制を整備します。
- ⑦不登校生徒への関わりを大事にして、保護者との連携を密にしながらスクールソーシャルワーカーとの連携を図り登校支援を組織的に推進します。
- ⑧生徒の自尊感情を高めるために、あらゆる生活場面で生徒の良さを認め、良さを引き出し、集団の中で自己の存在価値が認められる学級・学年経営を推進します。
- ⑨生徒の活躍やまじめな生活態度を評価するために学校表彰を行いその努力を讃えます。
- ⑩**道徳の授業を推進し「生徒の規範意識の高まりを感じられる」と肯定的な回答をした担任教師の割合「75%」を成果指標とする。**

### (3) 心の支援を推進するために（教育相談）

- ①生徒一人ひとりが、生き生きと意欲的に学校生活を送れるよう、個に応じた指導の重視と教育相談の充実を図り、生徒の心情を理解した、自己肯定感を高める教育を推進します。
- ②いじめ・不登校を未然に防止し安心して学校生活を送れるように学期に2回の担任・副担任との希望個人面談を実施し学校生活の悩みや不安の解消を図ります。
- ③スクールカウンセラーと連携し、カウンセリング（個別・集団）の充実を図り、生徒理解を深める。そのため、年度当初にスクールカウンセラーと面談を計画します。また、月1回、不登校生徒・家庭との連携を図り、心の支援を推進します。さらに、スクールソーシャルワーカーと連携を図り不登校や虐待などの問題解決に当たります。**不登校出現率を2.2%にします。**

### (4) キャリア教育を充実させるために（進路・キャリア学習の充実）

- ①3年間を見通したキャリア全体計画に基づいた学年別指導計画を立て、職業調べ・職場訪問（1年）、高校訪問（1年）、卒業生の体験談（1年）、企業社長のお話聴く会（2年）、職業体験3日間（2年）、上級学校体験訪問（2年）、都立三田・芝商業高

校都立入試講座（２・３年）、高校生によるマナー体験（２・３年）などの体験的活動を通して、望ましい勤労観、職業観、進路観を育むキャリア教育を推進します。

- ②自己理解を深め、「自立した人間としての生き方」を考えることを通して、将来の職業や生活を見通し、夢を達成できるように主体的に進路を選択する能力や態度を育てます。
- ③企業人を招きコミュニケーション能力等会社の一員として必要な能力・望ましい勤労観・態度を企業人との交流体験を通して育成します。
- ④都立高校と連携し出前授業や受験アドバイス、高校生になっての心構え、高校卒業後の進路状況等を高校の先生から直接お話を聴く機会を計画し、高校生によるマナー講座体験等高校進学への不安を和らげ、高校進学への意欲や目的意識、卒業後の進路・職業意識を高めるようにします。
- ⑤自分が希望する第１希望の高校に１００％進路実現ができるように１年次から計画的に進路学習をおこないます。その為に生徒一人ひとりの進路カルテを作成します。領域診断テストの結果や中間・期末テスト、学力テスト等の資料を基に生徒・保護者と連絡を密に取り進路指導を進めます。

#### （５）学校力を高めるために（学校運営）

- ①各主幹・主任は、担当する分掌の進行管理を行い、担当者・学年主任がそれぞれの責任と協力の基に組織的な学年・学校運営を行います。
- ②共通の課題で主幹・主任が講師になって初任者対象に校内研修を年間８回実施します。また、各自が個人の課題意識をもって外部研修に参加し教科指導や学級・学年経営、学校運営の資質の向上を図ります。
- ③学期に１回の服務研修、毎月１回服務事故防止研修等を通して体罰防止等服務規律の厳正を図り、生徒・保護者から信頼される教育公務員としての自覚をもって教育活動を行います。
- ④施設・設備の安全点検を毎月適切に行うと同時に学校内外の環境美化と整理整頓に努めます。（ISO委員会・主事）
- ⑤学年会計、部活会計、事務担当、管理職による学校予算の適切な執行管理を行い、会計事故の未然防止に努めます。
- ⑥学校便りや学年便りを毎月・毎週定期的に発行し、港南中学校の教育活動を常に公開します。また、Webページも毎週更新し、家庭への連絡はWebページのお知らせ欄も効果的に活用します。
- ⑦港南アカデミーの幼稚園・小学校との連携を推進し、幼・小中一貫教育を港カリキュラム連携や行事等で交流したり、教員の授業交流を推進します。小中連携を通して生徒の学習意欲を高め、基礎学力の定着を図るとともに、生徒の自己肯定感を高めます。ひいては、港南中学校の生徒数を一層増大させます。
- ⑧学校公開や中学校区共育懇談会・学校評議員会の実施、中高生プラザや地域との連携を密に図り、地域に根ざし、地域コミュニティの中核としての役割を果たし地域に密着した校風と伝統を作ります。

- ⑨保健体育の授業や部活動・NPO 法人クラブトムと協働しスポーツセミナーを開催し、体育・スポーツ活動の充実をはかり、体力・運動能力の向上とスポーツに対する意識を高め、生涯にわたってスポーツに親しむ生徒を育成します。
- ⑩プラクティスタイムに各学年週 1 回の体力・運動能力の向上を実践します。  
体力調査の体力合計点の全国平均を 100 とした時、**中男子「95」、中女子「94」を目指します。**
- ⑪特別支援学級生徒の個人の状態に沿った支援の必要やかかわり方を全教職員が理解し配慮していきます。また、特別支援教育を基盤とした他者にやさしい学級・学年・学校づくりをめざします。そのために、年 2 回の特別支援教育の研修を実施します。
- ⑫東日本大震災の被災体験を通して、日本国・日本社会の未来について自己の問題として受け止め、命の大切さ、人と人とのつながり、他を思いやることを学び、これからの日本に役立つとする生徒の育成に努めます。
- (6) 生き抜く力の育成を推進するために(特別活動・その他)
- ①保育園・幼稚園・小学校・都立高校・港特別支援学校・東京海洋大学をはじめ地域の関係諸機関との交流・連携を充実させ、地域の特色を取り入れた体験的な学習活動を行い、生徒の生きる力の育成を推進します。
- ②日本の伝統・文化理解教育を推進し、自国の伝統・文化、歴史に対する理解について体験を通して深めるとともに、異文化を理解する広い心、価値観の違いを認め合う豊かな心を育みます。
- ③特別支援アドバイザーとの連携を深め、学習支援の必要な生徒について学習指導の方法や個別指導計画の作成の仕方、生徒一人ひとりの個に応じた合理的配慮のあり方を学び、全ての生徒が楽しい学校生活を送れるような支援を行えるようにします。
- ④尾瀬夏季学園や港区学校版環境 ISO の活動を通して、環境問題に関心を持ち、環境に対する人間の責任と役割を理解し、節電・省エネ・リサイクル等の実践的態度と行動力を養います。
- ⑤英検、数検、漢検の受験指導を推進する。各検定の受験指導を通して教科学習の意欲を高め、教養を深め、中学校生活の充実を図ります。
- ⑥港南地区総合防災訓練に参画し地域の防災に対する意識や態度を育み、地域における中学生としての地域協働意識を養い地域の一員としての自覚や防災に対する意識を高め自助公助の防災行動を育成します。
- ⑦東京海洋大学との毎月 1 回の運河学習の時間を通して芝浦港南地域の運河について理科の共同研究を行い運河に生息する生き物を知り、利用する水圏環境リテラシーへの理解を深め、運河の生き物を守る心と私たちの郷土を愛する心を育成します。
- ⑧学校版環境 ISO の取り組みとして各学年の環境教育を推進します。環境教育については、組織的に省エネ・リサイクル・節電等を日常的に取り組むと共に家庭でも実践できるようにして、ISO 活動を一層推進します。また、港南地域における月 1 回の清掃活動を保護者・地域と連携し参加します。生徒は年間で 2 回以上の参加をし

ていきます。

- ⑨スクールボランティアを導入し授業・行事・補充学習や家庭学習等の指導の充実を図り、生徒の学習意欲・学力の向上を推進します。
- ⑩思春期における生徒の生き方指導として各学年学期に1回の学級担任等による性教育を推進します。そして、学校保健委員会で実施状況（指導内容・方法等）を知らせ家庭でも指導ができるように情報を提供して行きます。
- ⑪27年度の不登校の出現率を2.2%になるように目指します。

#### 4 中長期的経営目標

##### (1) 豊かな心と健やかな身体を育む生徒を育成するために

- ①自他を慈しみ生命を大切に、差別意識の解消を図り、心の教育を推進します。そのために、性教育や道徳の授業を中心に人権尊重の教育を展開します。
- ②何事にも主体的・能動的に取り組む態度を養う。集団の中で好ましい人間関係の構築や互いに支えあう関係をつくり、個々の社会性の資質の向上を図ります。また、クラスの役割遂行目標や行事の取り組み目標を掲げ学級・学年活動を計画的・意図的に実施し集団の一員として実行力の育成を図っていきます。
- ③豊かなスポーツライフの基礎の育成として、スポーツセミナーを開催し、健康・体力の向上を図り運動に親しむ楽しさを味わい運動する意識や習慣を身に付けさせます。また、健康・安全の知識を習得し危機管理意識を高め、健康・安全な生活態度を培い自主的に健全な心身の発達を図ります。

##### (2) 自他の敬愛と協力を重んずる生徒を育成するために

- ①授業や行事、特別活動の工夫をし、自分の内なるものを発見し伸張させ、他を重んじ協調していく姿勢を育成します。
- ②学校行事や部活動を通し、仲間と協力して目標を達成できるように指導・支援をして達成感や成就感を味わえるようにします。
- ③我が国の伝統や文化を尊重し、かつ豊かな国際感覚を身に付けさせるために、日本の伝統文化の体験学習を推進し自他を尊重する態度を育成します。国際都市港区の地域性を生かし、総合的な学習の時間とも関連させ、国際理解教育の充実を図ります。

##### (3) 学ぶ意欲と深く考える力を伸ばす生徒を育成するために

- ①習熟度に応じた少人数指導を中心とする「わかる授業」の工夫・改善を行い、基礎・基本的な知識・技能の習得を図ります。また、自分の考えを文章にして発表したり、実験やレポート作成などの活動を通して、言語活動の充実に取り組み課題を深く考え探求する態度を養います。
- ②課題解決学習や体験的な学習を積極的に取り入れ、生徒の興味や関心を高め、自らすすんで学習に取り組む意欲を育てます。
- ③自ら主体的・能動的に考え、課題を解決していく能力の育成を図るため、各学年の

ねらいを明確にし、3年間を見通した系統的なキャリア学習を実践します。

- ④授業と家庭学習が連動する学びのサイクルづくり（港南プロジェクトの充実）を推進し学習の習慣や学び方の定着を図り学習効果を高めていきます。
- ⑤東京海洋大学と連携をして運河学習を通して仮説・検証という科学的思考を育てます。グループ学習を通して意見を述べ合ったり、調べたことをまとめ発表してグループで学習（探求）する楽しさを味わいます。そして、その成果を発表し合い学習の成果を検証して次の学習に活かしていきます。

#### **（４）港南地区を文教地区に高め地域の融合の中核となるために**

- ①保育園・幼稚園・小学校・中学校・高等学校・大学や子ども中高生プラザ・芝浦港南総合支所との連携を密に図り地域で児童・生徒を育成します。
- ②共育懇談会を開催し子どもたちの健全育成を家庭・地域・学校の三者が協力をして推進します。
- ③港南総合防災訓練に総合支所・港南防災ネットワーク・自治会等と学校が協力をして地域防災に取り組みます。
- ④地域の教育力を学校教育に活かし学校教育の充実を図り、自立した生徒を育成します。

#### **（５）港南中学校の学校規模を各学年３～４クラス規模を想定した学校の体制づくりを進めるために**

- ①今年度、１年生２クラス、２年生２クラス、３年生３クラスでスタートする。生徒数の増加は、学習・部活動、学校行事等に活気が生まれ活動が充実する。このことにより、生徒の自尊感情が育まれ学校を誇りに思う生徒の育成に連動する。このため当面各学年３クラス規模の中学校を目指す。その際、今後の港南中の施設・設備等の教育環境の整備・充実を計画的に進めることを区に要望していく。  
30年度までに区の教育基本計画に港南中学校の新校舎構想を入れるように働きかけます。
- ②教育力の向上を図り学習環境・指導体制を再構築し授業・行事・特別活動等の充実に万全を期して取り組みます。
- ③生徒が希望する進路が決定できるようにキャリア教育を中核に据え、一人ひとりのキャリア発達を高めると共にキャリア教育に焦点を当てた幼・小中一貫教育を推進します。

#### **（６）港区教育ビジョンの実現のために、常に自己の資質・能力の向上を目指す教育者となるように努める。**